

お互いのよさを認め合い、 自己有用感を高めるための学級経営の工夫

～シンキングツールを活用した話し合い活動の工夫を通して～

特別研修員 生徒指導・教育相談 小山千文（小学校教諭）



<目指す児童像>

お互いのよさを認め合い、自己有用感が高まった児童



全員参加のウェビングマップ

議題に対して思いついたことを、ウェビングマップに自由に記入した。



自分の考えを表現することが苦手な児童でも、抵抗感なく自分の考えを友達に伝えることができた。



帰りの会での振り返り



学級全体の様子を振り返り、目標を達成できたらリンゴカードを貼る。友達の頑張りを木の葉のカードに書いて貼る。



お互いの頑張りを認め合い、より良い学級を目指して頑張ろうという意欲を引き出すことができた。



KJ法で意見交流

付箋に自分の考えを書いて、交流した。



お互いの考えの共通点や相違点を見付けることができ、意見を収束することができた。

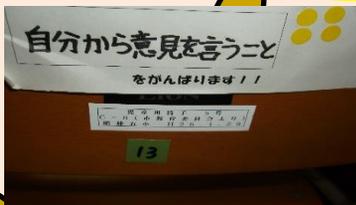


個人目標の掲示と振り返り

個人の行動目標を設定し、椅子の背に掲示する。



友達と伝え合い、励まし合う。達成できたら、シールを貼る。



【手立て1】 シンキングツールを 活用した話し合い活動



【手立て2】 お互いを認め合える 振り返り活動



<平成28年度 学校教育の指針>
児童生徒自身が充実感や存在感を味わえるような自発的・自治的な活動を取り入れましょう。

<児童の実態>

- ・男女が仲良くでき、トラブルは少ない。
- ・人前で話すことが苦手な児童もいる。
- ・意見を言う児童が限られている。

<学習指導要領>

信頼し支え合おうとする
人間関係の育成

<成果>

- 学級活動や各教科の学習の中に、シンキングツールを活用した話し合い活動の工夫と、お互いのよさを認め合う振り返り活動の工夫をしたことにより、全員参加の話し合いが実現した。
- お互いの考えを伝え合ったり認め合ったりしたことにより、集団としての絆が深まり、一人一人の自己有用感を高めることにつながった。

<課題>

- グループの意見を収束するための視点を示しておく必要がある。
- 話し合い活動を年間指導計画に位置付け、継続して取り組めるようにしたい。